

芦屋市議会議員

大原ゆうき

令和6年  
3月定例会特集

Blog

ブログ、日々更新中!  
<https://oohara-yuuki.blog.jp/>

大原 裕貴

@ooharayuuki

TOPICS

1

## 芦屋市の今後10年間の財政の見込みは？

## 長期財政収支見込みとは？

詳しくはこちら→



- 毎年、3月定例会(2月)中に公開される10年間の収支見込み。
- 将来的な社会情勢を含めた未来予測ではなく、向こう10年間の歳出を機械的に積み上げ、将来的な歳入と歳出のバランスがどうなっているかを観測する目的でつくられる。なので、見込みと実績が乖離することも少なくない。

## 基金残高はどうなっている？

- 財政調整基金はもしものときのためのお金なので、ここをキープしておくのは健全な財政運営を考える上では重要。
- 予算に対して、どれだけの基金を残しておくべきか？という確固たる指標は設けられていないが、標準財政規模の10~20%を残すようにしている自治体が多くなっている。

(単位:千円)

標準財政規模	基金残高	基金比率
24,848,512	22,000,000	8.85%

- 10年後の基金比率は令和4年度決算時点の標準財政規模の約9%。標準財政規模は変動するので、標準財政規模に対する基金の比率について断言はできないが、標準財政規模が大きく変動することは通常考えにくい。10年後の財政状況は危険水域とは言わないが、一般的に安心と言われる基金残高よりも少ないため、油断ならない状況である。

TOPICS

2

## JR芦屋駅南地区再開発事業、不安視されていた東西道路廃止プランは見送りに

詳しくはこちら→



- 8月29日の建設公営企業常任委員会にて、「駅前線東西道路(市道358号線)を廃止して、交通広場を整備したい」と表明。実施するか否かはデータを用いたシミュレーションの結果を見て決めるとのことで、検討が続けられていた。
- 2月9日の建設公営企業常任委員会にて、「シミュレーションの結果、東西道路を廃止するのは支障が大きいため、東西道路廃止の案は見送る」と報告された。
- 東西道路廃止は、多くの議員が「東西道路廃止は交通課題の悪化に繋がり、交通課題解決のための再開発事業には適さない」と指摘していた計画であり、議員の肌感覚とシミュレーションの結果は合致していた。
- シミュレーションのために要した費用は550万円。検討による延伸で生じた損失は約1億円との答弁があった。
- 原則としては、昨年までの計画で行くことになるが、唯一の改善点として挙げられるのがペDESTリアンデッキの下りエスカレーターを設置するというもの。足が悪い人には下りのほうがきついため、下りエスカレーター設置を要望していた。

ホームページでも情報公開中! <https://oohara-yuuki.jp>

TOPICS  
3

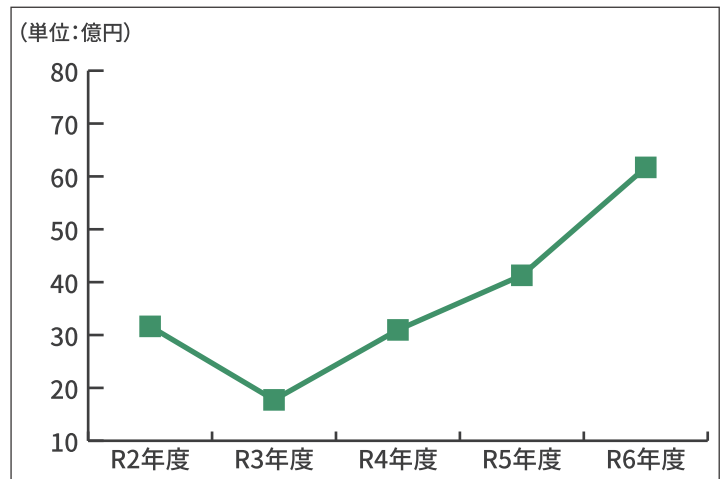
## 令和6年度予算を可決しました

[詳しくはこちら→](#)



	新年度 (R6年度)	前年度 (R5年度)	前年度比	
一般会計	469億6400万円	437億4100万円	32億2300万円	107.4%

- 前年度と比較して、一般会計が7.4%増額となっている。特に大きいのが民生費と総務費の増加。しかし、いずれにしても突発的な政策的経費の計上ではなく、義務的経費などで増加している。法人税に依存しない芦屋市の予算規模は大きく変わらないため、政策的経費の広がりについては注視する必要があるが、現時点では、市長交代による財政上の影響はさほど大きく出ていないと感じている。
- 財政の健全性という観点で注意が必要なのが、繰入金増加。右図の通り、例年と比較しても突出している。
- ただ、再開発事業に伴う公共用地先行取得債の償還など、増加の理由は明確ではある。また、例年、予算時に計上されている繰入金は決算時には取崩しを回避できている。なので新年度予算時点で問題ということではない。
- ただし、例年の基金取崩しを余儀なくされる時期が来れば問題となる。財政上の余裕がある今のうちに、行財政改革を進める必要がある。



TOPICS  
4

## 市議会議員のなり手不足解消のための 厚生年金加入。取り組む順番が違うのではないか。

[詳しくはこちら→](#)



- 現状、市議会議員を専業としている場合、2階部分のある公的年金には加入できない(基本的には国民年金)
- 市議会議員のなり手不足を解消するという名目のもと、議員の厚生年金への加入を働きかける意見書を提出するための議員提出議案が提出される。
- **日本維新の会(大原、浅海、橋本)、山口みさえ議員以外の議員の賛成**により、意見書は可決された。
- 議案に反対した理由は以下のとおり。
  - ➔ 就労、納税しているのに厚生年金に加入できずに受給額に差が出ている人たちを放置するのは問題  
議員のみならず、自営業やフリーランスとして就労し、納税している市民同様に国民年金の弊害(会社員と同じように就労し、納税しているのに、働き方の違いという理由のみで受給額に差が生じている)を背負っている。議員の身分を改善するのは、こうした課題を解決してからであるべき。
  - ➔ なり手不足の問題と厚生年金加入は直接的にリンクしない  
なり手不足の原因は、4年に一度ある選挙の結果によっては職を失う可能性がある不安定さの方が大きい。なり手不足の解消には、議員のセカンドキャリアの問題など、サポートの手を手厚くする必要があるのでないか。
  - ➔ 公金が追加されることに対する国民理解は得られない  
議員の厚生年金加入が制度化されると、国全体で年間約160億円のプラスが生じるとのこと。政治とカネの問題もあり、国民の政治不信は深刻化している。そんな折、議員の待遇向上のために更に公金を追加することに対する国民理解が得られるとは到底思えない。まず、議員の自助努力による政治不信の払しょくが必要なのではないか。

### プロフィール

- 昭和59年(1984年)2月8日 芦屋生まれ(40歳)
- 伊勢幼稚園、シドニー日本人学校、関西学院中学部、関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。卒業後は民間企業でシステムエンジニアとして勤務。
- 平成27年、芦屋市議会議員選挙にて初当選。令和5年、再選(現在3期目)

### 出前報告会募集中!

お一人での座談でも、複数での報告会でもお気軽にお申し付けください!  
希望日時と人数、希望テーマ(あれば)を添えて電話 or メールにてご連絡ください。